

# 第1回デフリンピック運営委員会 議事次第

日時：2023年4月12日 15:00～17:00

場所：戸山サンライズ 2階 大会議室

## 1. 運営委員紹介

## 2. 委員長及び副委員長の選出

## 3. 事務局から

- ・大会準備連携会議で確認をした2025年デフリンピックの運営体制等について

## 4. 議題「2023年度のデフリンピック運営委員会の事業計画案について」

- (1) 2025年デフリンピック大会におけるエンブレムの制作について（案）
- (2) 全国への気運醸成の推進について（案）
- (3) 2025年デフリンピック大会における社会的・文化的プログラムの検討について（案）

### 《参考資料》

- ・デフリンピック運営委員会規程
- ・2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議について（第1回、第2回会議 配布資料）

※なお、運営委員会事務局より、委嘱状を交付させていただきますので、委員会開始前にお越しいただけると幸いです

## デフリンピック運営委員会 運営委員名簿

アイウ順

氏 名	現 職
いしはら やすし 石原 保志	国立大学法人 筑波技術大学 学長
えんよ かつら 延與 桂	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長
おおた ようすけ 太田 陽介	一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事（スポーツ委員会 委員長）
はたなか じゅんこ 畑中 淳子	弁護士
はやせ くみ 早瀬 久美	デフリンピック選手
ひさまつ みつじ 久松 三二	一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事（事務局長）
やくしじ みちよ 薬師寺 道代	医師
よこやま ひでき 横山 英樹	東京都生活文化スポーツ局長

## 4. (1) 2025年デフリンピック大会におけるエンブレムの制作について（案）

### 1) 2025大会エンブレムの制作方針

○大会エンブレムに、大会開催の意義を込めるため、以下のように制作したい

◆きこえない人を制作の主役に（きこえない人がデザイン案を作成）

→デフリンピックに際し、デフアスリートだけでなく、他のきこえない人にも光をあてたい

◆次代を担う若者の参画

→次代を担う若者が作り、次代を担う若者が決める形にしたい

◆きこえない人ときこえる人が協働する

→きこえない学生ときこえない子どもたちが、エンブレムのデザイン案について意見交換ができる場を設けることで、目指すべき共生社会を体現する作成プロセスとしたい

※筑波技術大学・・・国内で唯一聴覚障害者、視覚障害者のための技術系の国立大学法人。きこえない学生が在籍する産業技術学部が協力。

➔大会エンブレムが、国民への共生社会実現に向けたメッセージとなるようにする

➔エンブレム制作にあたり、国立大学法人筑波技術大学（※）及び東京都と連携・協力し、進めていく

### 2) スケジュール案



## 4. (2) 全国への気運醸成の推進事業（案）

### 1) デフリンピック・フェスティバル（仮称）案

○全国へ2025年デフリンピックへの気運醸成を推進するため、以下のように進める

目 的：全国各地でイベントを実施することで、デフリンピックやデフスポーツについて関心や認知の向上を図り、ひいては2025年デフリンピックへの気運醸成を推進する

実施個所：全国8ブロック（北海道、東北、関東、東海、北信越、近畿、中国・四国、九州）

イベント内容：啓発映画上映、デフスポーツまたはパラスポーツ体験、講演またはパネルディスカッション、パネル展示など

➡きこえない人ときこえる人との協働によるイベントを通して、共生社会実現に向けたメッセージとなるようにする

➡地域の社会資源（アスリート、当事者団体、支援団体、自治体、スポーツ関係団体等）との連携

### 2) スケジュール案

2023年度

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

各ブロック  
への説明及  
び開催打診

開催  
県決定

開催県と  
の打ち合  
わせ及び  
連絡調整

デフリンピック・フェスティバル（仮称）を、全国8ブロック（北海道、東北、関東、東海、北信越、近畿、中国・四国、九州）で各1回、開催

★全国ろうあ者大会(6月/大分県) ★手話言語の国際デー(9月23日)

★手話・耳の日関連イベント(2月～3月)

★スポーツの日(10月9日)

★全国ろうあ者体育大会(9月/福井県)★2025年デフリンピック開催2年前(11月15日)

★2025年デフリンピック・エンブレム発表(夏頃)

### 3) イベント内容のイメージ

- イベントは、2025年デフリンピック招致プレゼンで掲げた大会コンセプト1.「デフアスリートを主役に、そしてデフスポーツの魅力を伝え、人々や社会とつなぐ」を推進する
- 開催地の市民、中高生、アスリート、スポーツ関係者、100人程度が参加
- イベント内容は「①みる ②する ③ささえる」の3つの柱とする

#### (イベント進行案)

##### ●みる



- (案) デフリンピック啓発映画の上映
- (案) デフリンピックパネルの展示
- (案) デフアスリートまたはパラアスリートの講演

##### ●する



- (案) デフスポーツの体験
- (案) パラスポーツの体験

##### ●ささえる



- (案) デフスポーツの支援者（監督、コーチ、手話言語通訳者、トレーナー等のパネルディスカッション
- (案) デフアスリートやスタッフの壮行会または報告会

イベントを通して、全国各地に  
デフスポーツやデフリンピックを知る、  
デフスポーツを体験し、デフリンピックへの夢の機会の創造、  
デフアスリートを支える人や団体、企業等を増やす

## 4. (3) 2025年デフリンピック大会における社会的・文化的プログラムの検討について (案)

### 1) 社会的・文化的プログラムの検討

#### デフリンピック規約 DG29. 宿泊施設及び詳細

組織委員会は、選手その他参加者がレクリエーションプログラムを利用できるようにする。このプログラムには、開催都市のための社会的・文化的プログラムに関する情報を含む。

- 外国からの選手、観客等だけではなく、全国への気運醸成に資するプログラムとなるよう、検討に着手
  - ➡ きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者、東京都等と連携・協力し、プログラムの調査・検討を進める。
  - ➡ きこえない人の文化芸術活動や手話言語文化を国内外の人に触れてもらうことを機に、“誰一人取り残さない世界 (SDGs)” の実現につなげる。

